

消防学校 ニュース



15:26 ドクターヘリ着陸



初任科生代表がヘリ支援

15:40 ドクターヘリ離陸

平成30年3月7日、緊急連絡が入り、傷病者のドクターヘリ搬送に伴い、救急隊とのドッキングを本校グラウンドで行うこととなった。訓練中の初任科第88期生の代表によるヘリ支援を行い、傷病者の搬送は無事完了した。昨年7月25日(7月31日発行のニュース第62号に掲載)以来、本年度2回目の出来事であった。



平成30年3月30日発行



初任科生代表がヘリ支援



初任科生たちが見守る中、救急車から傷病者をヘリに収容

初任科第88期

エピソード

まずは…「校外研修」

平成30年3月19日(月)
～ 3月20日(火)



貸切バスで出発!

第1日は、「国防」を担う陸上自衛隊、世界有数の大首都「東京」の安寧秩序を保持する東京消防庁を見学した。

職務遂行に際し同じ志を持った2つの組織だが、その組織の壮大さを目の当たりにし、とても良い刺激となった。

財政、施設・装備面において「国、首都」と「地方」との格差は桁違いだと痛感。



陸上自衛隊 立川駐屯地 (東京都立川市)

自分達は消防の専門家として自衛隊には負けない技術をも身につけなければならない(学生の復命より)



東京消防庁 第八消防方面本部 (東京都立川市)

東京消防庁に負けないように訓練を積み重ねたい(学生の復命より)



泊

能美防災 メヌマ工場 (埼玉県熊谷市)

第2日は、新設されたばかりの「能美防災テクノロジーメヌマ」を訪問。消防用設備・警報設備のデモンストラクション、実験を間近に見ることができた。初任教育の座学で勉強したことを実際に手にとって更に深く学んだことで、初任科生たちにとっての学習効果は高かったと思う。

平成30年3月22日(木)

初任科第88期生39名

新たな
出発
の日

(たびだち)



『七転び八起き』

開式



修了生氏名発表



修了証書授与

修了生を代表して
総代である 川口 柗 消防士
(駿東伊豆消防本部)に
澤野学校長から修了証書が授与
された。

修了生名簿と
氏名を呼ばれ
起立する初任
科生の一人ひとりの顔をチェックする
澤野学校長と坂口副校長。
約半年前の10月2日、大きな希望と
一抹の不安を胸に入校してきた初任科
第88期39名。励まし合い、助け合い
ながら、皆で頑張り、晴れの修了の日
を39名全員で迎えることができた。

表彰

教育訓練の成績又は学校生活での活動が特に優秀で、他の学生の模範となる者を表彰します。

静岡県危機管理監賞



杉本 賢祐
(静岡市消防局)

静岡県消防長会会長賞



飯田 直紀
(静岡市消防局)

静岡県消防学校校長賞



大畑 真登
(静岡市消防局)

精励賞



那須田 凌平 (浜松市消防局)
田中 翼 (静岡市消防局)

努力賞



鈴木 元
(静岡市消防局)

功劳賞



川口 柗 (駿東伊豆消防本部)
杉本 賢祐 (静岡市消防局)

消防学校長式辞



式の司会進行を務める
三輪 恵一 教官

半年間の教育訓練期間においては、季節も秋から冬へと移り、厳しい寒さ、冷たさにも耐えながら、一日一日を積み重ねてきました。

体力と精神力の限界に挑戦しながら、様々な訓練を立派にやり遂げ、消防という仕事の厳しさと責任の重さを身をもって学んできました。

本日修了式に臨む初任科第88期生は、今やプロの消防士として現場最前線へ向かう準備がしっかりと整ったものと確信しています。

初任教育初任科第88期修了式



澤野 岳志
静岡県消防学校長

静岡県危機管理部長祝辞



杉保 聡正
静岡県危機管理部長

静岡県消防長会会長祝辞



青山 雅行
静岡県消防長会会長
(静岡市消防局長)

修了生代表答辞



駿東伊豆消防本部 川口 柁



※ 後半部分からの抜粋です(校長)

私達は入校前の6ヶ月間、所属の中で一人の隊員として認められなかった悔しさから、一人前の消防士になるという共通の志を持ち、一日一日限界まで自分を追い込み、過酷な日々を乗り越えてきました。そんな私達にとって、消防学校での6ヶ月間という時間は本当に短いものであり、この場では言い尽くせないほどの様々な出来事がまるで昨日のこのように甦ってきます。

講義中居眠りをし、2時間体力練成を行ったこと、教官のモノマネで周りを笑わせてくれる者、革手を無くしたと周りを騒がせ結局自分で持っている者、楽しい仲間と過ごす共同生活は、日々の辛く苦しい訓練から逃げ出したくなった時、自分を鼓舞してくれる源になりました。

この学校で出会い・高め合い・共に汗を流した仲間達は一生の誇りです。数十年に及ぶ消防人生の中で大きな壁にぶつかり、進む道に悩むこともあるでしょう。その時はこの初任科第88期の皆が力となってくれることを信じています。

… 私達は本日、所属に戻りますが、常に五感を研ぎ澄まし、消防職員として自分に課せられた責務を全うし、どのような状況でも国民の生命、身体及び財産を守るよう全力を尽くす所存であります。…

修了式が終わって…



初任科第88期担任の園部 元康 教官から、修了生一人ひとりに修了証書が手渡された。

園部教官からのラストメッセージ

メッセージの内容は…

… 内緒です …



笑顔に涙のエピロ〜グ



★ 各消防本部の迎いの車に乗り込み、初任科生たちが所属へと向かっていく。
消防学校の校門を後にすれば、消防人としての本当のスタートラインに立つ39名の修了生たち。
そんな彼らを学校職員一同が手を振り、見送る…。健全な心と身体を保ち、消防人としてしっかりと歩んでほしい…。

消大レポート

第5弾!!!

予防科第103期

雪景色の消大



「発声指導」
指揮者を担当！



「災害時要援護者対策」
要援護者を体験！



「東京地方検察庁等視察」
緒方検事と5班の仲間！

主査 諸星 大輔 (駿東伊豆消防本部から派遣)

吉祥寺駅から南へ徒歩約 40 分、期待と緊張を持ち合わせ、消防大学校予防科第 103 期に入校させていただきました。

平成 30 年 1 月 11 日から 3 月 1 日までの約 2 か月間、全国から集まった 48 名の仲間とともに、違反是正の講義や実習を中心に、予防行政に関する様々な知識を得ることができました。

校外研修では、東京地方裁判所を見学し、人生初の裁判傍聴を体験し、法治国家である日本の内部を少しだけ見られたような気がしました。

また、人材育成に関する幹部教育的な講義も数多く、山崎教授による教育技法、浜田講師による説得技法や宇於崎講師による報道対応演習は、非常にわかりやすく、これからの消防人生できっと役に立つと感じました。

私の所属する 5 班は、総代を含めて 6 人の班で、西から鹿児島、三重、静岡(自分)、群馬、千葉、岩手と、全国津々浦々のすばらしい仲間と巡り合うことができました。約 1 か月間 6 人で真剣に作り上げた課第研究の発表も、とても良い経験となりました。

まもなく教官生活も 2 年目に突入します。得た知識や情報をフル活用し、今後の教育等に役立てられれば幸いです。

最後に、担当の南野教官をはじめ、大学校の方々に大変お世話になり、感謝の気持ちでいっぱいです。

ありがとうございました。



日本消防検定協会



大森教官

南野教官

飯田教官

お世話になった教官の方々！

消大レポート 第6弾



消防大学校 現任教官科（総務・予防） 第1期

平成30年3月5日（月）
～3月9日（金）
教育日数 5日
教育時間数 32時間

【授業科目】

- 消防実務管理
- 予防行政、予防教育のあり方
- 臨床心理学からみる職員管理
- 人権問題(知っておきたいLGBT)
- 教育技法、講義演習



教務班長 宮田 真人



今年度創設された現任教官科（総務・予防）第1期に全国の消防学校から27人の現任教官が集いました。

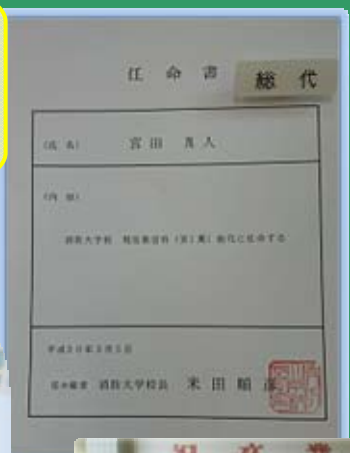
研修では、消防学校教官としての物の捉え方、講義・カリキュラムの具体的構築手法、臨床心理学に基づく学生管理の考え方、人権問題への対応、教育技法を踏まえた講義演習など、多岐にわたる教育を通じて、消防学校教官として求められる姿勢、資質を学び、学校運営や自分自身を見つめ直す大変良い機会となりました。

この場を借りて、消防大学校の山神助教授（岡山市消防局）、西村助教授（埼玉西部消防局）、南野助教授（大阪市消防局）、共に学びあった全国の消防学校教官に感謝申し上げます。

通常点検



学生の代表である「総代」として、全国の学校教官の前で指揮を執りました。普段とは違う緊張感。身が引き締まりました！



講義演習



栄えある現任教官科（総務・予防）第1期卒業生としての誇りと自覚を持って、大学校で学んだ知識と手法を遺憾なく発揮し、国民の期待に応えられる心豊かで創造性を有する人材の育成に尽力することを誓い合いました。

